

古典の学習における「創作」の要素を取り入れた言語活動の試み

—中学生が主体的に古典を学ぶために—

M15EP011

武井 武

1. 研究の目的と背景

(1) 研究の目的

中学生が主体的に古典を学習するために、「創作」の要素を取り入れた言語活動をどのように学習指導に取り入れるとよいのかを検討する。

(2) 目的設定の背景

2008年1月に出された中央教育審議会は、児童生徒の古典に親しむ態度を育てることを答申に明記した。この答申を受け、現行学習指導要領では、従来の〔言語事項〕に代わり、〔伝統的な言語文化に関する事項〕が小学校低学年から設けられた。この学習指導要領により、中学生が小学生のうちから古典作品に触れてきている現状がある。

このように、学習指導要領が古典を重要視し、早い段階から、児童生徒の古典に親しむ態度の育成を目指すものになっている一方で、古典に親しんでいる中学生の割合が低いという現状が示されている。2013年の「全国学力・学習状況調査」の「古文は好きですか。」という質問に対し、「古典が好きだ」と答えた中学校3年生の割合は29パーセントあった（文部科学省 2013, p.12）。

また、西原らは、広島大学附属の小学校・中学校・高校の生徒に意識調査を行い、中学生は小学生にくらべて、古典を「学習するもの」「やらされているもの」と捉えている割合が高いという結果から、中学校が古典学習の成立が最も難しい段階であると考察している（西原他 2012, p.173）。

全国学力・学習状況調査の結果や広島大学の意識調査の考察から、報告者は中学生の「古典離れ」を防ぐためには、古典の学習に対する中学生の受動的な捉え方を変える必要があると考えた。

報告者の昨年度の研究では、古典の学習に言語活動を取り入れることが、生徒が意欲的に古典の学習に取り組むことに一定の効果があることが分かった（武井 2016）。

今年度、報告者は、「意欲的に学ぶ」という部分をさらに掘り下げることとし、その足がかりとして、2008年の中教審答申の〔言語文化と国語の特質に関する事項〕の

古典をはじめとする伝統的な文章や作品を読んだり、書き換えたり、演じたりすることを通して、言語文化を享受し、発展させる態度を育成することを重視する。

という個所の「書き換えたり、演じたり」という部分に着目した。

「書き換えたり、演じたり」することについては、渡辺春美が、「古典の内化を図るための読みの方法」（報告者注：「古典の内化」とは、「主体的な解釈、批評を行い、価値を発見するに至った状態のこと」を指す。）の一つである「想像を広げる読み」につながると述べている（渡辺 2016, p.213）。

本研究では「書き換えたり、演じたりすることをはじめ、古典作品をもとに生徒が新しい表現を生み出すことを「創作」と意義づけ、創作の要素を取り入れた言語活動を「古典を

主体的に学ぶ」ことにどのように取り入れることができるか研究することとした。

2. 研究方法

研究の方法は、以下の2点である。

- (1) 中学生が主体的に古典を学習するために、古典を「主体的に読む」ための「創作」の要素を取り入れた言語活動がどのようなものか、先行研究・先行実践の分析をもとに検討する。
- (2) (1) で検討したことをもとに、実習校（山梨県内A町立B中学校）において、モデルを取り入れた古典の学習指導を行い、生徒の作品、ワークシートの記述、学習の振り返り（「学習のあしあと」）の記述を分析したものをもとに学習指導の観点から検証を行う。

以下、先行研究の概要、学習指導実践と分析の順に示す。

3. 先行研究の「主体的な読み」

(1) 学習指導における「古典観」の転換

渡辺は、これまでの古典の学習指導を「古典を時代の風雪に耐えて今日に継承された典型的、規範的意識を持つものとする古典観に基づく学習指導」とし、これからは、指導者が「先駆的にあるのではなく、学習者との関係性の中に立ち上がり、見いだされとする」関係概念としての古典観を持ち、学習指導を行うことによって「学習者は古典と出会い、古典と創造的に対話しつつ、豊かさを得る」と指摘した。(渡辺 2016, pp.7-8)。

しかしながら、報告者が実習校の中学生に古典についてどう思っているのか聞いたところ、「昔のことが分かって楽しい。」「昔の人の考えが面白い。」という生徒がいる一方で、「なぜ古典を学ばなければわからない。」という生徒もいた。「なぜ古典を学ばなければならぬかわからない。」という生徒は、古典を「教え

られるもの」「自分とは関係のないもの」と捉えていると考えられる。主体的に古典を学ぶ生徒を育てるために、生徒の古典に対する捉え方を転換する必要がある。

(2) 「主体的に古典を学ぶ」とはどのようなことか。

渡辺は、これまでの古典教育を改善するために、「古典教育は、『関係概念』としての古典観に基づき、古典の内化を目指して行いたい」とし、古典教育では〈価値の発見〉〈態度の育成〉〈技能の習得〉を目指したいと述べている。

そして、「価値を発見するために古典を主体的かつ創造的に読」むことによって、古典に親しむ態度の育成が達成できるとしている。

渡辺は「主体的な読み」と「創造的な読み」について

【主体的な読み】

読み手が既有知識を使って、文章材料に働きかけ、まとまりのある解釈を再構築すること。

【創造的な読み】

空所を補充し、文脈を整え、意味を想像する読み。
(報告者注 空所を補充するとは、作品に即して、書かれていないことを想像すること。)

と定義し、この2つがあって古典の内化が可能になるだろうと考察している(渡辺 2016, p.207)。

報告者は、この2つの読みについて「主体的な読み」が「空所を補充し、文脈を整え、意味を想像する読み」につながると同時に、「創造的に読む」には「読み手が既有知識を使って、文章材料に働きかけ、まとまりのある解釈を再構築すること」が必要であり、この2つの「読み」が、中学生が「主体的に古典を学ぶ」ために大きな役割を占めるのではないかと考えた。

(3) 古典を「主体的に読む」ための「創作」の要素を取り入れた言語活動

「古典を主体的に読む」ために「創作」の要素を取り入れた言語活動について具体的な方策を考えることにした。

「創作」という概念について、府川は、広い意味での「書き換え」であると捉えている（府川 高木 2004, p.133）。また、高木は、学習材としての文学作品を書き換えることによって、作品に表れているものの見方や感じ方、表現手段としての可能性等を相対化することで、描写されている物事や作品に対する《認識の変容》を促す、としている（府川 高木 2004, p.3）。

報告者はこれらの二人の考えの立場に立ち、今回の研究で扱う「創作」を、「ある作品を、学習者が既に持っている経験や知識をもとに読み直し、学習者の読みが反映された作品を作ること」と意義づけることとした。

4. 古典の学習指導実践と分析

以下、調査研究をもとに報告者が行った学習指導の概要と、実習校の中学校2年生に行った漢詩の学習指導の実践の経過とその振り返りを示す。

(1) 試行的実践

① 実践内容と成果

1学期から、表1にある学習指導を行い、それぞれの実践の効果をまとめた。

② これまでの実践からの考察

生徒の成果物や学習の振り返りの記述から、創作をすることを通して、生徒は本文や資料を読み直し、新たな読みを生み出すとともに、創作したものをもとにして、自分の考えと作品との比較、また、作者や登場人物との比較をすることができていたといえる。

(2) 漢詩の学習指導計画

① 単元名

漢詩の風景を日記風の文章にアレンジしよう

表 1 試行的実践の概要

作品	内容	生徒の変容
1学期 枕草子	広島大学（新治 2013）の実践を参考に、枕草子の序段をもとに、「私の枕草子」を書くという言語活動を取り入れた。その後、清少納言の季節についての考えをグループで比較させた。	古典を身近に感じられるようになった生徒が多く見られた。
2学期 （平家物語）	音読台本の作成を通して、那須与一のおかれた状況や、その場面での心情について生徒に考えさせた。	台本への書き込むこと、書き込みの理由を書くこと、書いたものを交流することによって、内容をより理解できるようになり、音読に生かせるようになったと振り返る生徒が見られた。
2学期 （徒然草）	仁和寺にある法師の構成を参考に、別の作品の結びの一文を理由とともに考えさせることによって、兼好と自分たちの考え方を比較させ、兼好がどのようなものの考え方をしているのか考えさせた。	兼好の考え方について関心を持つ生徒が見られるようになった。

② 目指す言語能力

漢詩に表れている、ものの見方や考え方について自分の考えをもつ。

③ 生徒の実態と漢文・漢詩との関わり

対象生徒は1年生の時に当時の指導者のもと、故事成語を紙芝居にする言語活動を行なった。そのため、古典をもとに何かを表現するという活動が印象に残っているという生徒が多い。

④ 指導内容と言語活動

【指導内容】

(ア) 漢詩特有の言葉遣いや言い回しに慣れる。 (イ) 漢詩の形式・特徴について理解する。 (ウ) 漢詩にうたわれている季節、情景を理解し、そこから作者の心情を想像する。

【言語活動について】

この学習指導では、日記風の文章という形に書き換えるという言語活動を設定した。日記風の文章の中には、事実の記述のみのものもあるが、事実とそれに対する筆者の心情が書かれたものが一般的だと考えられる。この漢詩は七言絶句という短い形式だが、作者が見たもの、感じたことを生徒に想像させ、生

徒にとって漢詩がより身近なものになることを目指した。

⑤ 指導の目標

(ア) 漢詩の作者のおかれた状況や心情に対する関心を深め、作品を読み進めようとしている。 【関心・意欲・態度】
(イ) 起承転結を意識し、漢詩の内容を理解することができる。【読むこと イ】
(ウ) 漢詩を作った作者の心情について、教科書の解説や資料と関連付けて自分の考えを持つことができる。 【読むこと エ】
(エ) 漢詩の表現や教科書の解説、資料を基に、作者の心情を想像することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質 ア(イ)】

⑥ 指導計画

指導内容、言語活動、指導の目標を踏まえ、次の通り学習指導を計画した。(表2)

表2 各時間の学習活動と評価方法の計画

次	時	学習活動	評価方法
1	1	○学習計画を確認する。	生徒の音読
		○「春暁」を用い、漢詩についての知識を整理する。	
2	2	○「絶句」を読み、教科書の解説や便覧などの資料を基に、杜甫の状況について理解し、心情を想像する。	ノートの記述
		○「黄鹤楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」を読み、教科書の解説や便覧をもとに、李白や孟浩然の状況を理解し、心情を想像する。	
	3 4 5	○想像したことを基に、李白の詩を日記風の文章の文章に書き換える。 ○お互いに作ったものを読み合う。	生徒の作品
3	6 7	他の漢詩を日記風の文章の文章に書き換える。	生徒の作品

(3) 学習指導の実践と分析

空所を生徒に考えさせる発問の有効性

【2時間目】「絶句」を日記に書き換える

「絶句」を読み、教科書の解説や便覧などの資料を基に、杜甫の状況について理解し、

心情を想像させるために、生徒に「目先を変えて『絶句』を読んでみよう」という目標と、その目標に迫るための活動として、「絶句」を日記風の文章に書き換えるということを導入で提示した。

生徒が主体的に古典を読むための工夫として、「『絶句』を日記にアレンジしてみるのに、足りないものはないか、どういう情報がほしいか。」という発問が挙げられる。この発問に答えようとする過程が、渡辺がいう「主体的な読み」「創造的な読み」につながると考えた。

生徒が日記に書き換えるのに必要だと考えた事柄は「日付・天気・時間・感想・見ているときに何をしているのか・どこに帰りたいのか・誰といたのか・具体的な名前」などが挙げられた。

生徒のこれらの意見をもとに、教科書の解説、便覧の資料の記述を使ったり、記述をもとに想像させたりして、杜甫の日記を書くように指示をした。

生徒の多くは、普段から書くことに対する抵抗感をあまり持っていないが、報告者は、ある作品を違う形態に書き換える活動に対し、難しいと感じる生徒が出てくると予測したので、班ごとでアイデアを出し合いながら、「絶句」を日記に書き換える作業を進めた。

生徒が学習後に書いた「学習のあしあと」の記述によると、「故郷を思う気持ちが詩から伝わってきた。」「詩で書かれた様子がよく分かった」「起承転結をしっかりと意識して読むことができた。」というような内容の理解が進んだと書いている生徒が多くみられた。その半面、生徒が書いた「日記」を読むと、複数の作品から、資料の誤った読みが見られた。また「学習のあしあと」に「日記にすることが難しかった。」と書く生徒が各クラスにみられた。「学習のあしあと」に「難しかった。」と書いた生徒に理由を聞いてみたところ、「書き出しが難しかった。」という答えが多かったの

で、次の指導の準備の参考とした。

【3時間目】前時の課題を生かした学習指導

この時間から、李白の「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」を学習した。日記を書く時間を増やすために、内容理解の時間を少なくしたかったが、2時間目の活動で資料の読み間違いが目立ったので、ワークシートを使い、詩の設定（誰が誰を送るときの詩なのか、孟浩然がどこからどこへ行くのか、孟浩然と李白はどのような関係なのかなど）を全員で確認をした。

詩の内容を確認した後、「絶句」の時と同様に、「この作品を日記にアレンジしてみるのに、足りないものはないか、どういう情報がほしいか。」という発問をした。この発問の生徒の反応として「場所」「季節」「風景」「日付」など「絶句」と同じような事柄に加え、「親友だった孟浩然がいなくなってどう思っているのだろうか。」「船が見えているときの気持ち、船が見えなくなっからの気持ちはどうだろうか。」「孟浩然が旅立つことをほんとはどう思っているか」など、この詩ならではの発言が見られた。

この時間の学習の振り返りについて、生徒の「学習のあしあと」の記述には下の表のようなものがあげられる。(表3)

表3 3時間目の「学習のあしあと」の記述例

A	日記にアレンジするとしたらいろいろなことが必要だと思った。
B	日記にするには何が足りなかったかを考えるのが楽しかった。李白の詩について知ることができた。李白の気持ちなども考えることができた。日記にするのに必要なものを考えられた。
C	現代語訳にして理解しながら、日記に足りないものを書いた。
D	李白と孟浩然の関係についてもっと知りたいと思った。
E	李白の心情の変化について聞きたい。

Aの記述から、目的のために足りないものを考える（空所を補充し、文脈を整え、意味を想像する）必要性を生徒が意識していることがうかがえる。何が足りないのか考え、その空所を想像することについてBの記述のよ

うに「楽しい」と感じる生徒も見られるようになった。

BやCの記述からは、「絶句」の学習で行った「空所を補充し、文脈を整え、意味を想像する」ことに慣れてきたことが分かる。

DやEの記述から、「この作品を日記にアレンジしてみるのに、足りないものはないか、どういう情報がほしいか。」という発問が、生徒の読みの意欲を高めていることが考えられる。

「創造的な読み」を支える理由・根拠

【4時間目】李白の詩を日記に書き換える

3時間目の学習指導を受け、「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之く」をもとに日記を書く活動を行った。その際、2時間目の「絶句」でも日記を書く活動で明らかになった生徒の反応をもとに、次の点を改めた。

まず、生徒がとまどうことなく活動を進められるように、生徒に学習の手引きを生徒に配布した。手引きには活動の手順とともに、「絶句」を日記にする活動を「難しかった」と感じた生徒の声を生かし、書き出しの例、構成の仕方、報告者が作成した例文を載せた。この時間の学習の様子を見ると、日記にすることを「難しい」と感じていた生徒も順調に活動を進めることができていたので、手引きがある程度有効であったことがうかがえる。

次に、日記を書くために参考にする資料を複数に増やした。「絶句」での活動の時は、参考にするものは教科書の解説文だけを用いたが、参考にする箇所が重複してしまい、生徒の成果物が似たようなものになるという課題が残った。今回は、前回の課題を解決するために資料をもう一つ提示するとともに、生徒が普段使っている国語便覧や国語のワークの資料を使うように指示をした。複数の資料の情報を取捨選択したり、それぞれの資料の情報をつなげたりすることにより、生徒が古典を「主体的に」「創造的に」読むことを期待し

た。

また、日記を作るためのワークシートに

「あなたは、どうしてそう書いたのですか。参考にした部分をまとめてみましょう。 「この文章を書くにあたって、あなたが工夫したこと、また、なぜそうしたのかを書いてください。」
--

という問いを設定した。工夫は読み手(生徒)の「読み」がもとになってできるものであり、生徒は資料の情報をもとに作品をもう一度読み直して自分の読みを作り上げている。生徒が参考にした部分はその生徒の読みの根拠となっている。このことから、この詩をどのように読んだのか、またその理由と根拠を再認識することができる考えた。

この時間の活動で、全員の生徒が日記を完成することができた。また、3時間目の学習が生き、「絶句」の時のような明らかな読み間違いも少なくなった。

下の表は生徒(Yさん)が実際に作ったものである。Yさんは、資料を活用し、集めた情報を生かして、「創造的な読み」を生かして日記を書くことができている。(表4)

表4 Yさんの例

Yさんが作った「日記」
今日はすがすがしいくらいの晴天だった。孟浩然が旅立つことを祝うかのように何かの花が舞っていた。長江を見下ろすと彼の乗っている帆掛け舟がぼつんと見えた。「揚州に無事についてほしいものだ。」とぼつりとつぶやき、帆掛け舟を見送っていると、白帆は青空のかなたにふっと消えてしまった。消えてしまった後でも、私は天才まで続く長江の水が流れていく様をながめていた。心にぼっかりと空いた穴を埋めるかのように、私は酒を飲みほした。
Yさんが参考にした部分
教科書 別離の悲しみ 広い長江の流れにぼつんと一つ浮かんだ帆掛け舟
教科書以外の資料 酒を飲みながら、孟浩然の去って行った後をずっとながめています。
Yさんが工夫したこと・その理由
何かの花が舞っていた。→桜の花びら→別れを表している。 心にぼっかりと空いた穴→さみしさ、悲しみをあらわしている。 すがすがしいくらいの晴天→心と真逆の空もよう

Yさんの「工夫したこと」の記述によると、

- 参考にしたところをもとに自分の読み

を形成していること。

- 自分の既有知識(桜の花が舞う=別れの季節の象徴)を詩に合うようにアレンジしていること。

が読み取れる。このようなことから、日記に書き換えることが生徒の「主体的な」「創造的な」読みの一助になっていることが分かる。

交流から広がる・深まる各自の「読み」

【5時間目】班内での「日記」の交流

「周りの作品(クラスメイトの書いた日記)や意見をもとにこの詩を詠んだ李白の気持ちをもう一度振り返る」という目標を提示した。

具体的には、4時間目で書いた「日記」を班の中で読み合い、他の人の作品に対してせんに気づいたことを書いたり、自分の作品に対しての周りの反応(気づいたことを書いた付せん)を読んだりして、そこから得たことをもとに、再度自分の書いた「日記」を読み直し、李白がどのような気持ちだったか再考することを目指した。

Tさんは4時間目で日記に書き換えたときに、「李白は泣いてると思う。」と書いていた。そして、この交流で班員の作品を読み、「(このような)李白の気持ちは自分にはなかった。」「書き出しがよかった。季節を使って気持ちを表していた。」「最後の書き方がとてもよかった。李白の気持ちがかけていてよかった。」とコメントを書いていた。Tさんは、交流後の学習の振り返りで、「李白はとても悲しかったと思う。李白は別れが来るのを知っていたと思う。」「いろいろな見方から詩を読むことができた。」と記述したことから、周りから受け取った付せんの記述をもとに、自分の読みに自信を持ったり、他の作品から新たな発見をしたりしていることが分かる。

教科書以外の漢詩に触れる

【6時間目】【7時間目】「日記」の活用

「絶句」「黄鹤楼にて孟浩然の広陵に之くを

送る」での学習を生かし、自分の選んだ漢詩を日記に書き換えてみるという言語活動を行った。

生徒には王維の「九月九日山中の兄弟を思う」と王翰の「涼州詞」の2首と、報告書が用意したそれぞれの解説を提示した。

王維の詩から家族を思う気持ちに同感したり、17歳で家族と離れ離れになる王維と将来の自分とを重ね合わせて考えたりする生徒がみられた。

王翰の詩からは、戦場の厳しさやその場にいる兵士への状況について考える生徒がみられた。

また、教科書以外の漢詩を読むことを「おもしろい」「楽しい」と感じる生徒がみられた。

(4) 「主体的に学ぶ」手立ての成果

生徒が毎時間ごとに記述する、学習の振り返りである「学習のあしあと」の記述をもとに、日記を書くという言語活動における生徒が古典を主体的に学ぶために用いた「手立て」の成果を考察した。

① 主体的に学ぶことができたと考えられる生徒の例

ここでは、3人の生徒のこの単元の「学習のあしあと」(学習の振り返り)を1時間目から7時間目までの記述を通して挙げる。(表5)

Yさん、Iさんは理解度が進んでいる生徒で学習意欲も高い。Tさんは、学習意欲はあるが理解度がそれほど高くはない生徒である。(Yさんは4時間目、Tさんは5時間目の例に挙げた生徒である。)

② 記述の内容の特徴と考察

主体的に学ぶことができたと考えられる例に挙げた3人は、漢詩を日記に書き換えることを好意的にとらえている。その要因として、書かれていないことを想像することに楽しさを感じていることが挙げられる。

また、Yさんのように、日記に書き換えることを通して、内容理解が深まったということは目的に応じて、生徒自身が主体的に問題を見つけ、作品を読み直すことができたからだろうと考えられる。

今回の学習では、日記を作ることによって作者の立場に立ち心情を理解することを目指したが、Iさんは、作者の立場になることを通して、自分の立場を振り返ることができている。

Tさんの記述には「難しかった。」とあったり、学習したことをしっかりとまとめられないところも見られたりするが、2時間目の記述から、自分が漢詩をどのように読んでいるのか理解していることが分かる。また、「李白は泣いたと思う。」という記述から彼が、日記を書くために「目先を変えて読む」ために教科書の解説や資料を活用し、作品を主体的に読んだことがうかがえる。このことから、

表5 単元を通しての「学習のあしあと」の記述例

Yさん	
はじめの問い	自分の考えや思いを今に伝えるため。
1時間目	漢詩を読むのは暗号を解いているみたいで面白かったです。
2時間目	漢詩に書かれていないことを想像するのは面白かったです。
3時間目	漢字の本を今度読んでみたいと思いました。
4時間目	日記を書くのもとても面白いと思いました。
5時間目	漢文の中に書かれていないところまで想像して書くと、内容がより頭に入ってきて分かりやすくなった。
6時間目	かなり難しいと思った。なんだか書きづらい文だった。
7時間目	漢詩はどれも自分の気持ちを表しているものが多かった。
まとめの問い	漢詩を読んだと、日本以外の国の歴史や作った人の気持ちを知ることができて面白い。
Iさん	
はじめの問い	感じたことかを書いていた人がいたから。
1時間目	短い文のよさを感じた。
2時間目	書いていないことを想像するのが楽しかった。
3時間目	故人＝友人という意味が分かったから、読んでも意味が分かった。
4時間目	夕方、二人で仲良く歩いているところが想像できたから文にした。
5時間目	最後に読んだとき、意味がぐっと来た。今も昔も大切な人の別れは悲しいんだなと思った。
6時間目	対句の表現等が漢詩にもあっておもしろいと感じた詩読んでいて、情景が浮かんだ。
7時間目	17歳で一人暮らしに自分も大学に行けばそんなことを思うのかなーと思った。
まとめの問い	昔の人の考えや今も変わらない気持ちが読んでいていくうちに伝わってきた。
Tさん	
1時間目	構成法(絶句)が難しかった。
2時間目	目先を変えて読めた。
3時間目	李白の気持ちが分かった。
4時間目	李白はとても泣いたと思った。
5時間目	李白の気持ちが分かった。日記にするといろいろな視点で見れた。
6時間目	律詩の仕組みが分かった。
7時間目	日記を書いて、しっかり読めた。
まとめの問い	昔の言葉を有効に使っている。

日記に書き換えるという言語活動が、彼が漢詩を主体的に読むことを促したと考えられる。

5. 研究のまとめと課題

生徒の成果物や学習の振り返りの記述を分析することによって、言語活動に「創作」の要素を取り入れた古典の学習指導において、以下の3つの具体的な手立てが効果があると考えられる。

古典作品をもとにした日記を「創作」する過程において、

- ① 創作するために考えなければならない「空所」がどこにあるのか考えさせ、本文や資料をもとに「空所」の中身を考える。
- ② 創作した時に、なぜそのように表現したのかという理由を作品や資料の記述をもとに考える。
- ③ 創作したものを元の作品や他の人の作品と比べ、もう一度自分の考えたことを振り返る。

以上の手立てを報告者が提示することによって、生徒の学習に次のような成果がみられた。

- ① 古典作品(または作品に関する文章)を、生徒が目的を意識することによって、主体的に作品を読み進むことができ、作品への理解が深まった。
- ② 作品の記述・資料を根拠として、生徒がもっている既有知識と結び付けて、作品には書かれていない事柄を想像することができた。
- ③ 活動を通して、また、成果物を交流することによって、作者の立場になってものを考え、作者の心情を考えると同時に、自分のことを振り返ることができた。

以上、創作的な要素を取り入れた言語活動が、古典を「主体的に」「創造的に」読むことを促し、中学生が「主体的に古典を学ぶ」た

めの一助となる可能性があると思われる。

しかしながら、本研究実践を通じた課題は、「創作」の前段階として作品の設定(時・場・人物)について正確に読み取り、作品や資料の読み間違いを防ぐことや、似たような文章ばかりにならないように複数の資料を提示すること、また、生徒の発達段階に応じた資料を発掘することが挙げられる。これらの課題を踏まえて、生徒が主体的に古典を学ぶ手段として、今後も創作の要素を取り入れた言語活動の可能性を探っていきたい。

参考文献

武井武(2016)「これからの中学校において「伝統的な言語文化」の学習に何が必要か—小中高のつながりを視野に入れて—」山梨大学教職大学院『平成27年度教育実践研究報告書』。

新治功, 三根直美, 山元隆春, 間瀬茂夫 [他](2013)「新学習指導要領のもとでの授業実践: 伝統的な言語文化の学習における小・中・高の連関について(2)」広島大学学部・附属学校共同研究機構『学部・附属学校共同研究紀要』41号。

西原利典, 三根直美, 山元隆春, 間瀬茂夫 [他](2012)「新学習指導要領のもとでの授業実践: 伝統的な言語文化の学習における小・中・高の連関について(1)」広島大学学部・附属学校共同研究機構『学部・附属学校共同研究紀要』40号。

府川源一郎, 高木まさき, 長編の会(2004)「認識力を育てる『書き換え』学習 中学校・高校編」東洋館出版社。

文部科学省(2008)中教審答申「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」。

文部科学省(2013)「平成25年度全国学力・学習状況調査 質問用紙 解説」。

渡辺春美(2016)「古典教育の創造—授業の活性化を求めて」溪水社。